

WSC 企画旅行 リーダー 渡辺 節子 参加13名

神々の花園ナマクアランド

豪華列車・ブルートレイン

サファリ & ビクトリアフォール

2012年8月20日(月)～9月4日(火) 16日間

「初めてのアフリカ旅行」

リポート 四日市市 堀口 茂喜

南アフリカは余りにも遠い国。かねてから一度は行ってみたいと思っていた南アフリカ。この企画旅行を知り、自分の85歳という年齢への危惧もありましたが、80回目の海外旅行という節目であることから参加を決めました。8月20日中部セントレア空港から香港、ヨハネスブルグと乗り継いで、31時間15分をかけて8月21日ようやくジンバブエのヴィクトリアフォールズ国際空港にたどり着きました。煩雑なVISA取得の手続きを済ませて無事に入国。心配した手荷物のトラブルもなく現地旅行社アフリカンプライドツアーの出迎えを受けてアフリカ旅行の第一歩を踏み出しました。



イララ・ロッジ(ヴィクトリア・フォールズ) 正面玄関



ロッジ近くのショッピングモール(民芸品の土産物)

午後 イララ・ロッジ (ヴィクトリア・フォールズ)にチェックイン 2泊 草屋根の玄関ホールは素晴らしい風格があって堂々としている。ロビーやレストラン、テラスなど全体的に広々とした作りで、庭先が広くワイルドアニマルが闊歩するということでした。

ヴィクトリア・フォールズ 徒歩観光。ヴィクトリアの滝は最大幅 1.7Km もっとも深い滝壺は落差 108mに及ぶといわれている。乾季であるため事前に注意を受けていたような飛沫で濡れ

るということもなかったが、雄大な眺望に我を忘れてシャッターを切り続けました。植民地時代からの名残なのか、公園内のトレイルはよく手入れされていて歩きやすかったことが、印象に残る。午後は遊覧飛行。ヘリコプターの空中散歩でヴィクトリア滝全景とザンベジ河など雄大な風景を俯瞰する。夕刻ザンベジ河のサンセット・クルーズに乗船。河馬、鱷そして川鵜など悠々たる大河と大自然のなかで、真っ赤な太陽が川辺に沈む風景を愛でながら、適度なアルコールで陶然たる心地になる。



手前はジンバブエ。ヴィクトリア・フォールとザンベジ河の向こうは隣国のザンビアである。航空写真より

8月23日(木) ヴィクトリア・フォールズからワンゲ国立公園へ2時間のドライブで移動。

サバンナ・サファリが始まる。乾季で冬の終わりのサバンナは、荒涼たる風景であるが、初めての体験なので、どんな動物に出会えるのか年甲斐もなくワクワク興奮しました。結局この日に見たのは、ライオンに食われた水牛の頭。縞馬、象、鱷、インパラ、ホロホロ鳥などでした。

8月24日(金)はこの地の学校訪問、持参の手土産をわたし折り紙指導など。ビレッジ訪問。アフリカ狼(Painted Dog)保護センター見学。象と会話のできると有名なオーストラリア出身の女性動物研究者シャロンさんの案内で水場に群がり集まる象の大家族を見ました。サファリの穴場と思いき縞馬の群れや麒麟の群れのいるところなどへ、日がどっぷり暮れるまで案内して下さったのには感激でした。



サバンナに群れる象のファミリー



象の死体を食うライオン



サバンナに群れる シマウマ

水場へやってきた ジラフ 常に周囲を見渡し警戒

6月25日(土)朝昼弁当持参で早朝から、終日サファリ。多くの動物を見ました。圧巻は、しとめて間もない大きな象に群がり食うライオンの群れを見て、サバンナの輪廻を感じました。この日ロッジへの帰り道で、車の前を横切り一列で通りすぎていくPainting Dogの一団に遭遇した。絶滅の危機にあるPainting Dogの集団に遭えた幸運に感動しました。



BAOBAB の巨木 根元の直径は15mという

写真提供 渡辺 敦氏

8月26日(日)ヴィクトリア・フォールズ空港からヨハネスブルグに飛び、バスでプレトリアへ。一泊して8月27日(月)有名な「走る高級ホテル」といわれるザブルートレインに乗車。

8月28日(火)27時間かけて南アフリカ第2の大都市ケープタウンに到着。

世界遺産・テーブルマウンテン ケープタウン中央駅からバスでテーブルマウンテンのケー

ブルカー乗り場へ直行。約 5 分で頂上にたどり着く。ここからの息を呑むようなパノラマはまさしく絶景というにふさわしい。そこはテーブルそのもののように平らである。ここにはケープ半島に生息する 2200 種の植物のほとんどが見られるということである。たまたま散策中にミーアキャットを見ることが出来たのはラッキーだった。



市街地後背部すぐに平らな山が

ケープタウン・テーブルマウンテン



はじめて見る TREE ALOE 葉はアロエそのもの



ボルダーズビーチ・ペンギンコロニーで

写真提供 渡辺 敦氏

8 月 29 日(水) ケープ半島周遊観光。シールアイランド、アフリカ最南端の喜望峰、ケープポイントそしてボルダーズビーチのペンギンコロニーで可愛いペンギンの群れを見ました。



ディナーの後のくつろぎ 赤いベストは現地旅行社



日本から持参のお土産の贈呈

社長 Mr. Hewett 氏

上の2枚の写真提供 渡辺 敦氏

旅行会社社長宅で一家を挙げて心温まる、ディナーの歓待を受ける。

とにかく大きなお屋敷に先ずびっくり。右を見ても左をみてもいくつもの部屋が続いている。我々が通された広間はインテリアも立派なのでただただ感嘆あるのみ。奥様から子息、お嬢さんほか身内の方で至れり尽くせりの歓待を受けました。奥様手料理のディナーも息子さんの薦めてくれるワインも美味しかった。旅の途中で一番印象に残る得難い時間でした。

ロベン島 (Robben Island) ユネスコ世界遺産 (文化遺産)

8月30日ケープタウンから定期船で30分の沖合に浮かぶ平坦な島であるが観光コースになっていて、大勢の観光客で船内は満員。アパートメント時代にネルソン・マンデラが27年の獄中生活のうち18年間を過ごした元刑務所島。現在では、人間の精神の自由、人種差別に対する民主主義の勝利を象徴する場所となっているが、バスによるちょっとした島巡りと、元の監獄をみせて英語による饒舌な演説が続き、ほとんど興味が湧かない観光であった。

カーステンボッシュ国立植物園 見学

ロベン島から戻り、テーブルマウンテンの南側斜面にひろがる、広大で本格的植物園カーステンボッシュ植物園へ行く。南アフリカにある2万2000種類の植物のうち約9000種類がここで栽培、研究されている。限りなく自然に近い雰囲気を持った植物園である。ここで初めて南アフリカの国花キング・プロテアや花の芯の部分が針刺しのようなピンククッション、デージーなどたくさんの南ア独特の植物を見ることが出来た。初めて Tree Aloe という大樹であるが、葉は我々の知る鉢植えのアロエと同じというものが見られた。



中央部が針刺し状になっている ピンククッション。



南アフリカの国花 プロテア

一大ドライヴ 8月31日(金)国立公園ナマクアランドに向かうため、早朝ケープタウンのホテルを出る。国道N7に入り北に向かい今夜の宿スプリング・ボックまで550Kmのロングドライヴとなる。途中オストリッチ・ファームに寄る。北にむかうほど気温が下がり寒くなる。約250KM 走ってクランウイリアムスでランチ休憩、再び国道N7で北上。途中で風雨が強まりド

ライバーもガイドもフロントガラスの曇りを拭くのに大童。国道をおりて、どっぷり日が暮れた暗夜の田舎道を看板頼りにようやく The Daisy Country Lodge in Springbok にたどりつき一泊。やっぱりよく冷えるので部屋の暖房機器を動員した。註 [Springbok 最終ページ](#)

神々の花園・ナマクアランド国立公園 幸運にも昨日の風雨がうそのように晴れる。

9月1日(土)ナマクアランドは荒涼な大地が一瞬にして広大なお花畑に変わる不思議な場所といわれている。北ケープ州の西部にあるこの地はまだ手付かずの自然が残る。雨がほとんど降らず、岩肌がむき出しになった起伏の激しい荒地だ。半砂漠地帯(desert)である。そんな不毛の地が年にたった一度だけ、想像もできないような美しい姿に変わる。8月の終わりから9月の初めにかけて、ほんのわずかの間だけ、あたり一面、花の絨毯と化すのである。オレンジ、黄色、赤、紫、ピンク……と、野生の花が色鮮やかに咲き乱れるその様は、まさに神々の花園！！といった光景である。バスと徒歩でお花畑を散策、大満足。



神々の花園 ナマクアランド パンフレットより



広大なお花畑

堀口 写

ナマクアランドからクランウィリアムスへ 昨日の道に戻る。330Kmの長距離ドライブ。クランウィリアムス着後 教会で催されているフラワーショーを見学。Blommenberg-Guest House 一泊

ウエストコースト国立公園へ

9月2日(日) 最後の日である。まずラムズコップ自然保護区のワイルド・フラワーガーデンに行く。庭園の岩場に残る昔の原住民の岩窟絵画(Rock Art)をカメラに収める。豊かな水をたたえた川を背景にしたガーデンにはワイルドフラワーが咲きみだれ、木々の新緑が映え

一幅の絵である。またこの地方にしか自生しないルイボスティーの原料となる低木の針葉樹にお目にかかる。(ちなみにクランウィリアムスには大きなルイボスティーの工場があった。)

国道N7を下り途中から西に折れ山道に入り、ウエストコースト国立公園へ 160Kmの移動。

昼過ぎ日曜日の人出で賑う海浜のレストランに到着。一帯がリゾート風の美しい町である。

ランチの後ランゲバーンへ。深く入り込んだ長さ26Km、幅6.4Kmのラグーンは眺望絶佳。ランゲバーン・ゲートへの途中から広大な満開の花畑が目に入る。感激だ！！皆いっせいにバスを降りて花畑に突進。カメラのシャッターを切る。ゲートを入るとすぐにフラミンゴの観察小屋にたどり着く。バスをおり小屋までの道中もワイルドフラワーの花盛り。花も鳥も撮影に大忙し。夕方日暮れまでラグーンに沿ってぐるりとドライブ。ランゲバーンの対岸の大西洋の荒波の打ち寄せる岬まで行く。道中では鳥や野生の動物にしばしば出会う。

日が沈む頃、The Farmhouse Hotelに入る。素晴らしいリゾートホテルで薪も用意された暖炉までしつらえてある。夜着いて朝出て行くにはもったいない気分になる。ディナーは打ち上げのワインパーティー、海鮮料理が美味しかった。



咲き乱れる花園 ウェストコースト国立公園



打ち寄せる大西洋の荒波 ウェストコースト国立公園



ラグーンにあるフラミンゴの営巣地 観察小屋から



最後の宿泊 ランゲバーンのザ・ファームハウス D, B&B

あとがき

旅行が終わってから数週間たってから、実感がじわじわ湧き出てくるのがいい旅というものだろう。何も思い出したくない旅もある。この南部アフリカの旅は出発前からわくわくする計画であった。帰国後日が経つにつれて懐かしく、素晴らしい体験をしたものだとつくづく感謝して

おります。リーダーの綿密な企画に最敬礼。

註 Springbok 北ケープ州西北部の町。静かな町であるが、70Km 南西にあるナマクワランドの花の季節だけ人であふれる。Springbok は南アの国の動物。南ア産のアンテロープ(羚羊・鹿の仲間)。Springboksは南アのラグビー代表の愛称。代表チームのユニフォームには前足を高く上げて飛び跳ねる Springbok のエンブレムが左胸につく。